



令和5年度後期学校評価アンケートについて

令和5年度 後期学評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

12月に実施した後期学校評価アンケートの結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇実施期間 令和5年12月1日～12月15日

◇対象者 白河総合支援学校生徒・保護者・教職員

- ◇方法
- ・アンケートフォーム (Forms) およびアンケート用紙にて回答
 - ・各項目の「適合度」を4段階で評価
 - ・「そう思う」「大体そう思う」を「肯定的回答」とし、「あまりそう思わない」「そう思わない」を「否定的回答」として分析

◇回答率 生徒95.1%（前期98.0%） 保護者76.2%（前期84.3%）
教職員100%（前期100%）

- ◇分析結果
- ・百分率で数値を表記
 - ・【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】【独自の項目】について、項目別に対象者別の回答を比較分析
 - ・【サービス】については、教職員のみの項目として分析
 - ・前期と比較し、5%以上の変化が見られた項目は、_____で表示
 - ・前期と比較し、3%以上の変化が見られた項目は、_____で表示

【確かな学力】

この項目では、生徒が自分の目標を理解し、その目標に向かって学習に取り組めているか、また、達成度について評価できているか、目標に近づく姿が見られるかについて尋ねています。

教職員	肯定的な回答 否定的な回答				保護者	肯定的な回答 否定的な回答				生徒	肯定的な回答 否定的な回答			
	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期
1 個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行なっている	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がされている	97.7%	96.1%	2.3%	3.9%	先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	92.1%	89.7%	7.9%	10.3%
2 生徒や保護者が短期目標と評価、実質の目標と評価を伝えている	100.0%	97.8%	0.0%	2.4%	短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	94.2%	89.7%	5.8%	1.3%	今、現在の自分の目標がわかっている	86.1%	88.7%	13.9%	10.3%
3 生徒が自己目標に一生懸命に取り組める活動を用意している	100.0%	97.8%	0.0%	2.4%	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	90.7%	96.1%	9.3%	3.9%	目標に向かって学習に取り組んでいる	91.1%	92.8%	8.9%	7.4%
4 生徒は満足感や達成感をもち、専門科(地域協働)の授業に満足感や達成感を感じている	100.0%	97.7%	0.0%	2.3%	子どもは専門科(地域協働)の授業に満足感や達成感を感じている	88.4%	89.8%	11.8%	10.4%	専門科(地域協働)の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	86.1%	89.7%	13.9%	10.3%
5 生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる	92.1%	98%	7.9%	2.3%	子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	83.7%	83.1%	16.3%	18.9%	教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	80.2%	79.4%	19.8%	20.8%
6 生徒は満足感や達成感を持ち、職場実習に取り組んでいる	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	88.4%	89.8%	11.8%	10.4%	職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	93.0%	93.8%	7.0%	6.2%
7 生徒の働く意欲や働くために必要な姿勢や態度を育むことができている	92.1%	97.7%	7.9%	2.3%	子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	88.4%	89.8%	11.8%	10.4%	一生懸命働く意欲を持ちや職場で必要な態度が身についている	98.0%	91.2%	4.0%	2.2%
8 生徒の学習の結果や努力・達成度を評価し、授業改善・指導法の改善に活かしている	97.4%	95.3%	2.6%	4.7%	子どもの努力や達成度が評価されている	95.3%	93.5%	4.7%	6.5%	先生は、学習の成果(できるようになつたこと等)を伝えてくれる	92.1%	85.5%	7.8%	4.1%

多数の質問項目において、肯定的回答が85%以上となっています。保護者の『子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる』の質問項目においては、前期よりも肯定的な回答が5.4%高くなりました。後期にかけて、産業現場実習に取り組む機会が多くあり、将来の『働く生活』の実現に向けて、生徒それぞれが自分と向き合いながら取り組んだ姿から得られた評価だと思います。教職員の『生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる』『生徒の働く意欲や働くために必要な姿勢や態度を育むことができている』の項目でも、肯定的な回答が5.6%高になりました。学校内での学習だけでなく、本校の特色でもある『デュアルシステム』で、学校外（企業や地域）での学習を進める中で、生徒たちの姿が変容してきたことが表れていると考えます。

一方で、生徒の『一生懸命働く』という気持ちや職場で必要な態度が身についている』の項目で、肯定的な回答が4.2%低くなりました。生徒たちが自分の頑張りや成長に気づけるように、また、その気づきを自信にして次に進めるように、毎日の授業での振り返りの時間や、実習終了後の事後学習およびキャリアアドバイスの時間を充実させていくことが大切であると考えます。後期より、専門科の授業後に入力した『学習の振り返りシート』を各ホームルーム教室でも担任などが確認することができるようシステム化しました。毎日の学習の積み重ねを共有する機会を増やし、成果を生徒たちにフィードバックできるよう努めていきたいと思います。

また、前期学校評価アンケートで、やや否定的回答が高くなっていた、生徒の『今、現在の自分の目標がわっている』『専門家（地域協働）の授業で「できた」「うれしかった」ことがある』の質問項目では、肯定的な回答が3.6～3.8%高くなりました。授業のねらいや課題を具体的に伝え、生徒が自分の目標を明確に理解することで、やるべきことや頑張ることなどを意識して学習に向かう姿につなげることができつつあり、生徒が自分の目標や課題を意識しながら学習することで、「できたこと」「頑張れたこと」など、自分の成長に気づき、達成感や充実感を感じる姿を引き出すことができつつあるのではないかと考えます。今後も、引き続き、生徒自身が主体的に学びに向かえるよう、伝え方・提示の仕方・教材選択などを工夫して授業づくりに取り組み、確かな学力の獲得につなげていきます。

【豊かな心】

この項目では、自己肯定感や自己有用感にかかる内容について尋ねています。

教職員	肯定的な回答		否定的な回答		保護者	肯定的な回答		否定的な回答		生徒	肯定的な回答		否定的な回答	
	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期
9 生徒の良いところや得意なところを伸ばすことを意識して指導している	97.4%	97.7%	2.6%	2.3%	子どもには良いところや得意なことがある	94.2%	96.1%	4.7%	3.9%	自分の好きなところや得意なことをよく知っている	86.1%	83.5%	13.9%	16.5%
10 生徒の自己有用感を高めるため、「役に立ちたい」という思いを促すような活動を用意している	94.7%	97.7%	5.3%	2.3%	子どもには「誰かの役に立っている」と実感できる学習が準備されている	89.5%	88.3%	10.5%	11.7%	自分はだれかの役に立っていると思う	86.3%	89.1%	33.7%	30.9%
11 生徒の自己肯定感を高めるため、生徒の人権を尊重した書類かけや指導・支援を行なっている	97.4%	97.7%	2.6%	2.3%	教職員は子どもの生活年齢や発達段階に応じた適切な書類かけや指導をしている	93.0%	92.2%	4.7%	7.8%	先生はわかりやすく丁寧な書類づかいをしてくれ、自分のことをわかってくれる	90.1%	85.8%	9.9%	14.4%
12 生徒との事前・事後学習や保護者との懇談会等、相談などに丁寧かつ適切に対応している	100.0%	97.7%	0.0%	2.3%	ケース懇談会など、学校は保護者に適切に対応している	91.9%	92.2%	5.8%	7.0%	事前・事後学習等で先生は仕事の内容や課題・評価等を教えてくれる	96.0%	95.9%	4.0%	4.1%
13 生徒が友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力し合えるよう指導や支援をしている	94.9%	97.7%	5.1%	2.3%	子どもは友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力している	93.0%	89.6%	7.0%	10.4%	友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力している	94.0%	89.7%	6.0%	10.3%
14 生徒に自分から積極的に挨拶するよう指導や支援をしている	94.9%	97.7%	5.1%	2.3%	子どもは自分から積極的に挨拶している	79.1%	81.8%	20.9%	18.2%	自分から元気よく挨拶ができる	80.2%	74.0%	19.8%	26.0%
15 生徒に学校の決まりや約束を守って学校生活を送るよう指導・支援している	89.7%	95.3%	10.3%	4.7%	子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	90.7%	93.5%	8.1%	6.5%	学校のきまりや約束を守っている	88.1%	81.0%	11.9%	8.2%
16 生徒に家庭で決まった役割を担うように促している	92.3%	95.3%	7.7%	4.7%	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	82.6%	85.7%	17.4%	14.3%	家庭で決まった役割(例えば、お手伝い)があり、実行している	80.2%	82.5%	19.8%	17.5%
17 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	97.4%	97.7%	2.6%	2.3%										
18 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している	74.4%	78.7%	25.6%	23.3%										
19 生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している	94.9%	97.7%	5.1%	2.3%										
20 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・簡述している	89.7%	97.7%	10.3%	2.3%										

各質問項目において、おおむね肯定的回答が高くなっています。前期学校評価アンケートでも課題として挙げた、生徒の『自分はだれかの役に立っていると思う』の質問項目は、肯定的回答が60%台となっておりますが、肯定的な回答が2.8%向上しました。また、保護者の『子どもには家庭で決まった役割があり、実行している』、生徒の『家庭で決まった役割があり、実行している』の質問項目でも2～3%の肯定的回答の向上が見られました。若干の上昇傾向ではありますが、今後も自己有用感を育むために、学校や家庭の中で、目標や役割を設定し、生徒が活躍できる場を増やすとともに、行動や成果、目標に対して努力した過程（プロセス）を認めることで、主体的かつ積極的な姿を引き出し、自己有用感や自己肯定感を高めていきたいと考えます。

また、コミュニケーションの基本となる『挨拶』について尋ねた項目で、生徒の『自分から元気よく挨拶ができる』の質問項目で否定的回答が前期よりも6.2%高くなりました。これは、産業現場実習、地域協働活動等での経験から、そこで得た他者評価も踏まえて、社会人と自分自身を客観的に比較し、自己評価した結果ではないかと考えます。卒業後、社会人として社会で活躍する姿を目指して、今後も、挨拶の大切さを生徒に伝え、学校全体で、挨拶を大切にする意識を高めていけるよう、生徒と教職員が一緒に取り組んでいきたいと思います。

【健やかな体】

この項目では、健康に関することについて尋ねています。

教職員	肯定的な回答				否定的な回答				保護者	肯定的な回答				否定的な回答				生徒	肯定的な回答				否定的な回答			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
21 生徒に適切な食生活を送るよう指導している	92.3%	95.3%	7.7%	4.7%	子どもは朝ごはんをきちんと食べている	84.9%	81.8%	15.1%	11.2%	朝ごはんをきちんと食べている	78.2%	83.5%	21.8%	18.5%												
22 生徒に衛生に関する指導・支援を行なっている	97.4%	100.0%	2.6%	0.0%	保護者として子どもには日常的に清潔にすることをかけている	98.5%	97.4%	3.5%	2.8%	清潔にすることを心掛けている(例えば、毎日の入浴や歯磨き、汗をこまめに拭くなど)	96.0%	94.8%	4.0%	5.2%												
23 休日事に実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	89.7%	88.4%	10.3%	11.8%	子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	88.4%	88.3%	10.5%	11.7%	休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる	89.3%	71.1%	30.7%	28.9%												

前期学校評価アンケートでも課題として報告した『朝ごはん』についての質問では、保護者の『子どもは朝ごはんをきちんと食べている』の質問項目では、否定的な回答が3.1%高くなりましたが、生徒の『朝ごはんをきちんと食べている』の質問項目では、肯定的な回答が5.3%上昇しました。今後も継続して、働く生活を送るためにには栄養や休養をしっかりとることが大切であり、一日の活動効率やパフォーマンスを上げためには朝ごはんが大切であることなど、生徒が食事の大切さに気付けるよう工夫をしながら、適切な食生活の指導を行ってまいります。

また、生徒の『休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる』の質問項目では、若干、前期よりも肯定的な回答が上昇しましたが、71.1%に留まっています。豊かで質の高い生活を実現するためには、適切な食生活同様、余暇の過ごし方を充実させることは、重要なことです。今後も余暇を思う存分楽しめる時間が持てるよう、自己理解を進めて自分を知ることや、ICTを活用して情報を収集することなどを継続して学習するとともに、趣味の幅を広げたり、好きなことに没頭したりするなど、様々なことにチャレンジする気持ちを育て、自分なりの余暇の過ごし方を見つけることができるよう取り組んでまいります。

【独自の項目】

この項目では、企業との連携、地域との協働を図りながら進めている学習について、および、情報モラルに関することについて尋ねています。

教職員	肯定的な回答				否定的な回答				保護者	肯定的な回答				否定的な回答				生徒	肯定的な回答				否定的な回答			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
24 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	90.7%	88.3%	9.3%	11.7%	企業の協力があり、職場実習などができるできていることを感じている	98.0%	95.8%	2.0%	4.2%												
25 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	93.0%	88.3%	7.0%	11.7%	地域の協力があり、地域との活動ができるできていることを感じている	91.0%	89.7%	9.0%	10.3%												
26 生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	100.0%	97.7%	0.0%	2.3%	保護者として、学校の教育の趣旨や目的を理解している	98.5%	94.7%	3.5%	5.3%	地域や企業等、学校外で学ぶ経験をすることで、校内でもより一生懸命に学習することができる	91.0%	91.7%	9.0%	8.3%												
27 情報モラルについての指導を積極的に行なっている	94.9%	95.1%	5.1%	4.9%	子どもはルールやマナーを守って情報機器やSNSを使用している	88.0%	87.0%	12.0%	13.0%	決まりやルール、マナーを守って情報機器(スマートフォンやタブレット)やSNSを使用している	92.1%	93.8%	7.9%	8.2%												

各質問項目において、肯定的回答が高くなっています。前期と比較すると、保護者の『地域との連携・協働による学習環境が設定できている』の質問項目の否定的な回答が4.7%高になりました。今年度は、コロナ禍が終息し、企業や地域など、校外での学習が広がってきましたが、以前の活動を復活させることに留まっています。今後は、様々な場所、人、ものとのかかわりの中で、生徒がいきいきと学習できるよう、学びの環境をデザインし、活動の幅を広げるとともに、生徒がやりがいや使命感を持って活動に向かうことができるよう環境を整えていきたいと思います。また、ホームページや学校だよりなどで、生徒たちの活躍を発信できるよう努めてまいります。

【サービスの項目】

この項目は、教職員のみの項目です。働き方に関することについて尋ねています。

教職員	肯定的な回答				否定的な回答				保護者	肯定的な回答				否定的な回答				生徒	肯定的な回答				否定的な回答			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
28 報告・連絡・相談を実施してを行い、情報の共有に努めている	94.9%	95.3%	5.1%	4.7%																						
29 勤務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている	71.8%	90.7%	28.2%	9.3%																						
30 勤務の効率的な遂行を心掛けている	92.3%	97.7%	7.7%	2.3%																						

前期との比較において『業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている』の項目で、肯定

的な回答が18.9%高くなりました。また、『職務の効率的な遂行を心掛けている』の質問項目においても、肯定的な回答が5.4%高くなりました。教員それぞれが時間の使い方を工夫したり、優先順位を考え計画的かつ効率的に仕事をしたりするなど、働き方を改善する意識が高まった結果だと思います。また、ワークライフバランスやライフワークバランスの考え方方が浸透してきたのではないと考えます。教職員自身が質の高い生活を実現することで、仕事に対する意欲も高まり、教育の質が向上することに繋がっていくと思いますので、今後も、教職員が心身ともに健康で仕事に向かえるよう、働き方改革を推進してまいりたいと思います。